

日本地衣学会

No.4

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	第1回大会開催（速報）.....	13
	「一枚岩のヘリトリゴケ」をめぐって.....	14
	和歌山県古座川町長のメール / 古座川町長.....	14
	ヘリトリゴケ雑記 / 梅本信也.....	14
	2002年度第1回メール評議員会報告 / 庶務幹事.....	14
	評議員会運営についての内規.....	14
	編集委員会から / 編集委員長.....	16
	本誌とLichenologyの複写について.....	16
	複写される方へ.....	16
	ページ番号の変更.....	16

第1回大会開催（速報）

JSL 1st Annual Meeting was held at Kobe (News Flash)

（原田 浩：編集委員長）

日本地衣学会第1回大会は神戸薬科大学を会場に、2002年7月27日と28日にかけて開催された。

26日夕刻には、シンポジウムの招待講演者、ドイツEssen大学のLumbsch氏を囲み、神戸三宮付近の中華料理店で会長・大会準備委員長など数名が歓迎のパーティーを開いた。

27日当日は、午前中に評議員会、午後には設立記念国際シンポジウム「Prospective of Lichenology in 21st Century」（21世紀における地衣学展望）、夕方には懇親会を催した。

翌28日は、研究発表会として、16題の口頭発表。大会には、全国から約30名ほどが参集し、他分野の専門家が集った。従来には無かった異分野間の本格的な交流

が始まった記念すべき日といえよう。大会終了間際には、会誌Lichenologyの創刊号が到着し、記念すべき大会に花を添えることができた。

それにしても会期中は、約37度という猛暑、クマゼミの蝉時雨れの中、駅から神戸薬科大学までの道は気が遠くなりそうな暑さ、いや熱さだった。

評議員会報告、総会報告など大会の公式の記録記事は、次号以降に掲載予定。今しばらくお待ちを。また、研究発表要旨はLichenology1巻2号（11月発行予定）に掲載される。

「一枚岩のヘリトリゴケ」をめぐる

Episodes about *Porpidia albocaerulescens* on Ichimai-iwa Rock

会誌 *Lichenology* 創刊号の表紙を飾った一枚岩のヘリトリゴケをめぐる、2題をお届けする。(原田記)

和歌山県古座川町長のメール

嬉しくありがたいお知らせお蔭様です。

早速、全管理職にメール転送させていただきました。

しかも創刊誌の事とて、特に嬉しく思っております。

学会の開催について私どもにやるべき事がございましたらまたお申し付けください。

梅雨の中休みとは申せ今日の暑さです、ですが、まだまだ雨が欲しいですね。

真っ盛りの夏に向かって、清流古座川は賑わってまいります、また、ゆったりと古座川においでいただき、私どもへもお立ち寄りくださいませ。

まずは、取り急ぎ御礼まで、本当にありがとうございます。

649-4104

和歌山県東牟婁郡古座川町高池

古座川町長 広瀬 征彦

(7月3日、「一枚岩の写真が地衣学会誌 *Lichenology* 創刊号の表紙を飾る」ことを梅本信也氏が町長あてに知らせたところ、同日梅本氏あてに届いたメールである。/原田注)

ヘリトリゴケ雑記

連鎖反応という言葉がある。バタフライ効果という言葉もある。風が吹けば桶屋が儲かるわけである。しかし、橋が架かれば *Lichenology* の表紙が *Porpidia* となる、というのも1事例に加えなければなるまい。

私が勤務する京都大学大学院農学研究科附属亜熱帯植物実験所は、本州最南端の串本町沖紀伊大島に位置するさいはての研究施設である。最終氷河期以来、紀伊半島と紀伊大島は海峡によって隔てられてきたが、島民の悲願がお上に通じ、1999年9月9日に串本大橋によって地続きとなる手筈となった。

架橋されれば島の生物相が変容するであろう、しかし、天下の京大実験所が何もしないのでは面子が立たないということで、当時の兼任所長の肝煎りで、私の細い学者人脈を動員し、架橋前の蘚苔類、高等植物、キノコ類リストを作成することとなった。無事に調査は終了し、「紀伊大島植物目録」として発刊された。

キノコ類を担当した近畿大学の種坂英次博士は、専門がキノコ学だが、約20年前にヤシ科のサゴヤシ研究で知り合い、その後は私と同様に日本雑草学会の若手の会

を成立させた功労者の一人である。彼が先に就職した後は永らく音信が途絶えていたのだが、今回のキノコ調査依頼をきっかけに水入らずで共同研究を行うことになった。

島北部には戸時代初期以来、地区民が保全してきた魚付林がある。1960年頃の松枯れによって打撃を受けつつも、鬱蒼としたスダジイ林が広がる。偶然、私達はこの森のスダジイ幹に巨大な強く背着するサルノコシカケ科らしき奇天烈なキノコを見つけた。後に種坂博士によってシイサルノコシカケであることが分かった。今度は個体群を調査してみると、最大サイズが160cmもあることが分かった。巨大である。たぶん、世界最大であろうということと有頂天となった。検討の結果、そのキノコは推定70歳位であろうということになった(梅本・種坂 2001)。

そこで、共同研究のテーマとして「巨大生物シリーズ」をメインに据えることになった。キノコ類は片づいたので、次は蘚苔類か高等植物で攻略しようとおちこち記憶を辿ったが、易々といい材料が得られるものではない。ギネスブックも久々に紐解いたが、アイデアは得られなかった。しかし、特製の隠し玉があった。その隠し玉は、1999年に私がある場所に種坂博士を案内したときに、彼が思いつき、その後私がひそかに暖めていたものであった。

対岸の紀伊半島には古座川という清流がある。その中流河岸には、オーストラリアのエアーズ・ロックを彷彿とさせる一枚岩という奇岩があり、一大観光名所となっている。高さは約百メートルもあるほぼ垂直の絶壁である。今は亡き司馬遼太郎もその素晴らしさを絶賛した。確か、あの絶壁に地衣類らしきパッチがあったはずである。いや地衣類に違いない。川向こうから見てその丸いパッチは直径1mはあるだろう。地衣類は確か成長が遅かったはずだ。そこで、私達は、一枚岩の地衣類?を「巨大生物シリーズ」第2弾とすることになった。

ところが、である。問題の地衣類様パッチは絶壁の中腹にあり、容易に近づけない。希少植物も残っている位の難攻不落さである。対岸から測量するにも、距離が有りすぎる。企画倒れとなるのか。大体、あれは地衣類なのか。(つづく)

文献：梅本信也・種坂英次．2001．紀伊大島スダジイ林の巨大なシイサルノコシカケ．南紀生物 43：27-29．

(梅本信也：京大・亜熱帯植物実験所)

2002 年度第 1 回メール評議員会報告

1st Web Meeting of the 2002 JSL Councilors

（山本好和：庶務幹事）

当学会は、設立から間もないため、多くの事柄について評議員会で審議する必要がある（会則では、評議員会は会務の重要事項を審議すると定めている）。しかし全評議員が参集するのはせいぜい大会のときくらいしか可能ではなく、それ以外の時期に召集するのは現実的ではない（学会から旅費を支給することはできないので、評議員個人負担となる）。そのため、懸案事項について迅速に審議することを目的に、インターネットを利用した「メール評議員会」を運用することになった。以下に、その第 1 回目のメール会議の報告をする。

第 1 回メール評議員会は最初に木下氏を議長に選出した後、吉村会長の「評議員会運営内規を議題とする開催」要請に応じ 5 月 27 日から 7 月 1 日まで開催された。木下議長から定足数の確認が行われ、10 名全員の参加で第 1 回メール評議員会の成立が宣言され、議事に入った。討論後採決され、賛成多数で評議員会運営についての内規（下記）が承認された。

評議員会運営についての内規

- (1) 本内規は会則第 15 条に基づく評議員会の運営について定める。
- (2) 評議員会の運営を効率的に行うため、評議員の互選により議長を選出する。議長は評議員会に出席できない場合、出席可能な評議員の中から代理を指名する。
- (3) 学会運営を迅速かつ効率的に行うため、以下に区分する評議員会を設ける。A. 本学会大会期間に開催される定例評議員会。B. その他会長が必要と認めたととき、または評議員の 3 分の 1 以上から請求があったとき、会合にて行われる臨時評議員会。C. その他会長が必要と認めたととき、または評議員の 3 分の 1 以上から請求があったとき、電子メールによって行われるメール評議員会。
- (4) 会長あるいは議長が必要と認めたとときは、その他役員、委員長、委員等は評議員会に出席することができる。ただし、議決権は持たない。
- (5) 定例評議員会は以下に記述する方法で運営される。
 1. 事務局は会議に先立ち出欠確認を行い、出席できない評議員は委任状を提出する。
 2. 会議は議長が議事進行する。
 3. 会議に先立ち議長は定足数を確認する。
 4. 会議にあたり、事務局は審議事項を提案する。
 5. 意見が出尽くした段階で、議長は意見を集約する。
 6. 修正があれば事務局は改定案を再度提案する。
 7. 修正がなければ議長は採決提案を行う。
 8. 別段の定めがなければ、委任状を含む出席者の過半数の同意で採決提案は承認される。
- (6) 臨時評議員会は以下に記述する方法で運営される。
 1. 会長は、議長に会議の開催と審議事項を提案する。
 2. 議長は、開催日と開催期間、審議事項を決定し、評議員全員と会長、事務局に連絡する。
 3. 事務局は会議に先立ち出欠確認を行い、出席できない評議員は委任状を提出する。
 4. 会議は議長が議事進行する。
 5. 会議に先立ち議長は定足数を確認する。
 6. 会議にあたり、事務局は審議事項を提案する。
 7. 意見が出尽くした段階で、議長は意見を集約する。
 8. 修正があれば事務局は改定案を再度提案する。
 9. 修正がなければ議長は採決提案を行う。
 10. 別段の定めがなければ、委任状を含む出席者の過半数の同意で採決提案は承認される。
- (7) メール評議員会は以下に記述する方法で運営される。なお、電子メールアドレスを保有していない評議員にあっては、ファックスもしくは郵送、面談などメール以外の手段で事務局と相互に交信し、事務局はその情報を評議員全員と会長宛に速やかに電子メールで連絡するものとする。
 1. 会長は、議長に会議の開催と審議事項を提案する。
 2. 議長は、開催日と開催期間、審議事項を決定し、評議員全員と会長、事務局に連絡する。
 3. 各評議員は会議に参加できるかどうかを議長ならびに事務局に連絡する。参加できない場合には、議長に委任状を提出する。
 4. 議長は委任状を含めて過半数の参加を得て出席者に会議の開催を宣言する。
 5. 各出席者は電子メールで意見を評議員全員と会長、事務局に発信する。
 6. 意見が出尽くした段階で、議長は意見を集約す

る。

7. 修正があれば会長または事務局は改定案を再度提案する。
8. 修正がなければ議長は採決提案を行う。
9. 別段の定めがなければ、委任状を含む出席者の過半数の同意で採決提案は承認される。出席者のうち、明確な意志表示票の無かったものは白票として扱う。

(8) 評議員会での議事は事務局が記録し、終了後事務

局は議事録を作成する。作成された議事録は評議員に開示され、その修正、承認を受ける。

- (9) 評議員会で承認された事項は、直近の総会で報告される。また、直近に発行されるニュースレターに掲載される。
- (10) この内規は評議員会において過半数の同意を得て改定できる。

附則 本内規は2002年7月1日より実施する。

編集委員会から From the Editorial Board

(原田 浩：編集委員長)

本誌とLichenologyの複写について

このたび日本地衣学会は学術著作権協会と複写権等委託に関して契約を結びました。これにより、本会の会誌Lichenologyとともに本誌も対象出版物となります。複写にあたっては、次のような規程に従っていただくこととなります。正式な手続きを経て有償でコピーすること以外は違法となりますので、ご注意ください。

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619.

E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222
Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic
Association for Copyright Clearance (JAACC).
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo
107-0052 Japan. Tel: 81-3-3475-5618.
Fax: 81-3-3475-5619. E-mail: naka-
atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

ページ番号の変更

ニュースレターはこれまで各号p1から始まっておりましたが、本号から第1号からの通しページとします。

原稿募集

ニュースレターは原稿が集まり次第、随時発行します。一般会員からの声を掲載したいと思いますので、ふるってご投稿ください。

Lichenology 日本地衣学会ニュースレターとも、投稿先は：

原田 浩。〒260-8682千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館。Fax 042-266-2481。
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

なお両誌とも、著作権を著者から日本地衣学会に無償で移譲していただくこととなります。これは、両誌の記事の一部を学会の活動のために使用したり、合法的な複写を可能にするためのものです。特に本誌ニュースレターについては、著作権移譲の契約書を作成することはありませんが、投稿される会員の皆様には、予めご承知おきくださるようお願いいたします。

(原田浩：編集委員長)

日本地衣学会ニュースレター 第4号

発行日：2002年8月8日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内